



信州発 ⇒

駒ヶ根から世界へ!
訓練所開設40周年

2019
新春号

No.58
2019.1.1

JICA 駒ヶ根



国際協力

OVが駒ヶ根に集結! 第6回信州駒ヶ根ハーフマラソン 協力隊経験者50名が完走!!



9月30日に開催された第6回信州駒ヶ根ハーフマラソンにJICA海外協力隊経験者50名が参加しました。駒ヶ根市は、協力隊経験者が訓練所のある駒ヶ根を第二の故郷として里帰りできる場所になるよう、第3回大会より協力隊特別枠を設けてくださり、協力隊経験者のランナーは自分の任国の国旗ゼッケンをつけて走ることができます。

マラソン前日、訓練所には参加者やJICA、JOCAスタッフが集い、交流会を実施しました。美味しいお料理や各地からのお土産がずらりと並び、みんなでにぎやかに楽しくいただきました。初めて会う人ともすぐに打ち解けられる、元協力隊員。会場に花が咲くように協力隊の輪もパッと広がりました。マラソン完走を祈願して駒ヶ根協力隊を育てる会の高坂名誉会長からは、「辛苦のときこそ道ひらく」と協力隊員へのメッセージが染め抜かれた手ぬぐいをいただきました。

台風24号が接近するマラソン当日、スタート直前は、大雨でしたが、次第に天候はよくなり、途中には晴

れ間も見られました。

普段は応援される機会はないけれど、この日は地域の方々やスタッフから声援を受け、特別な気分になりました。特別枠の皆が付けていた任国の国旗ゼッケンや声援が力に変わり、気持ちよく走り切ることができました。

参加者の小路克雄さん(昭和57年2次隊フィリピン・家畜飼育)からは、「自分が訓練を受けた訓練所で宿泊し、赴任国の国旗を背負いながら、『フィリピン頑張れ』と果物やそばを差し出す声援を受け、最高の景色の渓谷を走る。この快感がたまらなく、来年もまた里帰りかな〜」というコメントを頂きました。ぜひ、来年も里帰りしてください!

来年度は応募方法などが少し変わる予定です。ご案内はJICA駒ヶ根のHPに2月頃に掲載いたしますのでご覧ください。



2019年度 JICAボランティア事業の 制度が大きく変わります

JICAボランティア事業は、これまでも時代に即して制度の改善・改革に取り組んできました。しかし、多方面からさまざまな提言や指摘を頂戴する中で、変わらぬ意義と変えるべき制度・業務について検証し、事業の枠組みを抜本的に見直しました。

何が変わる？

1. 派遣区分は「年齢」から「案件内容」へ

これまで、39歳を境に青年海外協力隊とシニア海外ボランティアに区分していましたが、年齢ではなく、①一般案件と②相当程度の経験・資格を求める案件という内容による区分での派遣へと変更します。

2. 海外支給手当も基本同一に

海外で支給される現地生活費や住居費限度額も年齢区分により差がありましたが、基本同一額とします。国内で支給される手当等も抜本的に見直しました。

3. 事業評価体系を構築

相手国の「開発への貢献」の評価を充実させるために事業評価体系を構築し、評価ガイドラインを策定します。個々の隊員活動の計画・状況・結果表におけるPDCAを強化するとともに、隊員が効果的な計画作成ができるよう派遣前訓練を見直します。

派遣前訓練が年3回に

これまで年に4隊次派遣であったところ、2019年度からは3隊次派遣へと変わります。年齢にかかわらず、JICA海外協力隊は全員70日間の派遣前訓練を受けることになります。

2019年度春募集説明会のお知らせ

2019年度春募集期間は2019年2月13日～4月3日です。長野県内5か所で募集説明会を行います。

- ①松本市／2019年1月27日(日) 14:00～16:00
【信毎メディアガーデン】ホール
- ②飯田市／2019年2月9日(土) 14:00～16:00
【飯田市地域交流センター】会議室1
- ③長野市／2019年2月16日(土) 14:00～16:00
【長野市生涯学習センター(TOiGO)】第1学習室
- ④上田市／2019年2月22日(金) 19:00～21:00
【サントミューゼ 上田市交流文化芸術センター】多目的ルーム
- ⑤駒ヶ根市／2019年3月2日(土) 14:00～16:00
【こまがね市民活動支援センター(ぱとな)】

プログラム

JICA海外協力隊の概要説明、経験者による体験談、応募相談

※予約不要、参加費無料

今年も、 みなこいワールドフェスタが 開催されました！

今年で25回目となる「みなこいワールドフェスタ」が、10月20日～28日の1週間開催され、宮田村、中川村、駒ヶ根市、飯島町からなる「みなこい」地域を国際色豊かにしました。

歌や映像で世界を感じる地球のステージや、訓練所スペイン語講師のホセ先生によるメキシコ料理教室、映画上映など、1週間に渡り様々なイベントが実施されました。



子どもたちは、自分でバッジを作りました

26日には、中川中学校と赤穂小学校で、青年海外協力隊経験者による体験談とワークショップを行いました。

最終日には、駒ヶ根駅前が「国際広場」となり、色々な国の音楽やダンスが会場に華を咲かせ、青年海外協力隊経験者も参加した世界のお料理ブースが並びました。JICAブースでは、バッジ作りや訓練所見学ツアーを実施。訪れた子供たちは、自分が描いた絵をバッジにして喜んでいました。50名以上の訓練生が朝から会場設営やブース運営を手伝って、訓練所と市民の距離が近くなった一日でした。

イベント・レポート

Event Report



10/20,28



ネパール交流市民の会の皆さんによるネパールダンス

モルディブ青年研修

紅葉が見頃を迎えた11月中旬、青年研修事業「モルディブ体育教育コース」の研修員9名は、初めて経験する寒さのなか、駒ヶ根訓練所で9日間の研修を実施しました。

駒ヶ根市内では、市役所の「市民向けスポーツ振興策」について説明を聞いたあと、赤穂高校、赤穂中学校の体育授業を見学し、日本の体育教育の仕組みについて学びました。

訓練所に宿泊した研修員は候補生の皆さんと意見交換会やチームビルディング演習などで交流したり、早朝6時半からの「朝の集い」やラジオ体操にも参加しました。

1月にモルディブ派遣予定の2018年度3次隊の渡邊みなみさんは、「現地の人の特性がわかった。押し付けず、歩み寄って活動したい」と感想を述べ、同、石田作(つくる)さんは「自分の活動地の人と一緒にチームビルディングしていきたい」と抱負を述べました。



候補者の意見交換会



研修員は一人ずつ駒ヶ根市や飯島町でホームステイしたあと、初めてのリンゴ狩りを体験しました。研修終盤には帰国後すぐに実践する「アクションプラン」を発表して元気よく帰国しました。

研修補助員として参加したモルディブOGの勅使瓦(てしがわら)満理奈さんは、「現地には体育用具の不足という課題があるが、活動中の青年海外協力隊員と意見交換しながら工夫してほしい」と期待を述べました。駒ヶ根市内でホームステイを受け入れた有賀秀樹さんは、「ゆかたを着せたら、帯がきれいだと喜んでもらった」と女性研修員の様子について述べました。

帰国し、職場に戻った研修員は、作成したアクションプランを実行に移すべく、派遣された青年海外協力隊員と一緒に活動する予定です。



ブラジル日本移民110周年記念フェスタ in Nagano

9月30日(日)長野市もんぜんぷら座にてブラジル日本移民110周年記念フェスタが開催されました!

今年4月に北信地域在住の日系ブラジル人の方々を中心に実行委員が結成され、長野県民の方々へ少しでもブラジルや移民歴史について知って欲しいという熱い思いから始まったこのイベント。

当日は台風予報でしたが、子どもからご年配の方まで多くの皆さんに足を運んでいただきました。

移民歴史のパネルコーナーをはじめ、国民食のフェジョアータやガラナ、子どもたちの伝統的な遊び、サンバなどの音楽で会場はまさにブラジル一色に!

長野県在住の外国籍の方の中で、2番目に多いブラジルの方々との交流を通して、移民歴史や多文化共生社会について知る機会、きっかけとなっていることを願います。

このフェスタを契機に来年に

は長野県における日本とブラジルの友好関係をより一層深めていけるよう、「長野日伯協会」が設立される予定です。

ご来場いただいた皆さん、Muito obrigado!



移民の歴史の展示



皆さんお疲れ様でした!

協力活動(地域実践)の訓練は、地域での協力活動の実践を通じて派遣後の活動に必要なスキルを養う訓練です。

地球人ネットワークinこまがねは、2006年に設立されたボランティア団体であり、外国籍住民と地域住民との相互理解を図り、心触れあう暮らしやすい地域社会を目指すことを目的として活動を行っています。

訓練所で訓練を受けているボランティア候補者たちは、体を動かすアクティビティや、料理作り、座談会形式で話をするなどを通じて、地球人ネットワークinこまがねの会員同士の交流を深め、日ごろの悩みを共有するきっかけとなる場を作る取り組みを行いました。

ボランティア候補者からは、「会員の方々の交流を

深めるために、アクティビティを考えたり、グループ毎の座談会におけるトークテーマを設定



したり、くじによる席替えを行ったり、様々なことを計画しました。参加者の皆さんが楽しそうにしている姿を見ることが出来て良かったです」という感想を聞きました。

地球人ネットワークinこまがねからは、「若い意欲のある方たちが活動に参加してくれて、雰囲気明るくなった。新しいアイデアを出してくれたことや、前向きな姿勢が刺激になった」とのご意見を頂いています。

地域の方々との交流を通じて学んだことを、これから世界中でボランティアとして取り組む活動に生かす良い経験にして欲しいと願っています。

新シリーズ

語学訓練こぼれ話

今回より、訓練で最も時間を費やす語学訓練を紹介する新コーナーを始めます。

記念すべき第1回目は、11月から駒ヶ根青年海外協力隊訓練所の語学訓練担当として勤務している鈴木聖哉さんのご紹介です。

JICAボランティアとして任地で活動する上で不可欠であり、多くの方が不安を抱えるのが「語学」ではないでしょうか。私は2016年度2次隊野球隊員として中米ニカラグアに派遣されていました。ニカラグアの野球は非常に盛んで、世界ランキングでも2017年は13位と世界でも上位の国です。合格した時はそんなところで、しかもプロを目指す選手たちに野球を指導できる喜びを感じました。しかしそれと同時に、練習の意味を伝え、相手に考えさせる発問の必要性を思うと、語学に対する不安は拭えませんでした。

ニカラグアをはじめとする中南米の多くの国の公用語はスペイン語です。多くのボランティア候補者同様、私もJICAボランティアに合格するまではスペイン語は全く学んだことがありませんでした。訓練所では計70日間行われる訓練のうち約64%の時間が語学に充てられています。訓練を受けているときは辛いと感じることもありましたが、無事修了して任地に着くと、現地の方が話すことが

何となく理解できます。簡単な要求を伝えられることもでき、海外旅行もしたことがない私は70日間の訓練の成果に感動しました。

帰国後の現在、駒ヶ根訓練所の語学班の一員として勤務しています。実際に訓練を受け、ボランティアとして活動した経験を活かし、今後は訓練を受けている候補者の皆さんの語学学習の一助となっていきたいと願っています。



**協力隊員
現地レポート**
from エクアドル
やすはら **かな**
安原 花奈さん
2017年度2次隊
環境教育
安曇野市出身



コンポスト試作

Feliz año nuevo(あけましておめでとう)の言葉とハグで迎える2回目の新年。日本での年越しが懐かしいです。私の派遣されているエクアドルでは、11月末からクリスマスの準備、新年、カーニバルとこれからFiesta(お祭り)ばかりです!!

私が活動する任地、サン・ホセ・デ・チンボ市は、エクアドルのほぼ中心に位置し、標高は約2500m。気候は、乾季・雨季とありますが、比較的過ごしやすいです。任地の中心部は小さいので、ほぼ全員が顔なじみであり、外を歩けば挨拶、時には「お家へごはんを食べにおいで」と、声をかけてくれます。

私は、市役所の環境管理課に配属され、現在は、主に市内の小学校で、環境教育授業を子供たち向けに行っています。その他には、同僚と共に生ごみを利用したコ

ンポストの運用や植物の管理、市内の公園整備などを行っています。任地での活動も約1年が経ち、なかなか思うようにコミュニケーションが取れず、葛藤することもまだありますが、残りの任期も現地の人たちと楽しく、ひとりでも多くの人が環境に対して興味を持ってもらえるように活動していきたいです。



活動のつかの間のひと時



他隊員とのコラボ授業を終えて

帰国したJICAボランティア

2年間の活動
お疲れ様でした!!



2016年度2次隊

あせがみ あいか

畔上 愛花さん
(野沢温泉村)

- 派遣国：カメルーン
- 職種：幼児教育



手洗い講習

中部アフリカに位置し、6か国と国境を接しているカメルーン共和国。270以上の民族やキリスト教、イスラム教などの宗教、そしてアフリカ大陸の様々な気候や地形を持ち合わせたようなカメルーンは「ミニアフリカ」とも呼ばれています。任地は西部州バンガンテ市。緑豊かで涼しく、野菜が豊富なこの西部州は私のイメージしていたアフリカとは違ったものでした。この土地柄は出身地長野県を思わせてくれ、配属されてすぐに親近感を持ちました。

配属先は県の初等教育事務所。活動先はそここが管轄する幼稚園の中の3園。製作、運動遊びや集団遊び、歌や手遊びを中心に情操教育の普及をしたり、手洗い講



体のパズル

習をしながら衛生活動の普及をしたりしました。教材がほぼゼロ状態の幼稚園。何をやるにしても、まず教材作りからでした。お金はかけず、ペットボトル、空き箱等

の廃材、手作りでチョーク絵の具や小麦粉糊を用意してそれぞれの活動に必要なものを揃えていきました。

今年度からカリキュラムが変わり、情操教育に目を向けた教育方法を取り入れていくようです。この2年間ともに取り組んだ活動が現地教員たちの中に少しでも響き、今後の教育活動に生かされていくことを願っています。



卒園発表会でのビスケット食い競争

2018年度3次隊(8名)

行ってきます!!

長野県出身新ボランティア



小林 真子 さん(須坂市) 派遣国: トンガ 職種: 卓球

トンガのスポーツセンターでの選手育成や、地元での卓球の普及活動を行います。JICAボランティアは私にとって大きな挑戦です。卓球を通してたくさんの方に笑顔と元気を届けることができるよう精一杯活動します!



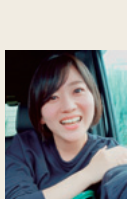
小林 美紀 さん(上田市) 派遣国: タイ 職種: 観光

中学生の時に派遣された寧波市への親善大使を契機に青年海外協力隊を応募しました。任地にて山岳民族支援も含めた観光開発、体験型地域開発の要請として派遣されますが、少しでも現地の方のお役に立てればと思います。



齋藤 友香 さん(松本市) 派遣国: カメルーン 職種: コミュニティ開発

首都から車で西へ4時間程度の場所に位置するンデ県で、水関連の問題改善に取り組みます。一緒にカメルーンへ派遣される隊員たちや職場の方々と一緒に、一日一日を大切に活動して、成長してきます!



澤木 さくら さん(飯山市) 派遣国: ネパール 職種: コミュニティ開発

学生の頃から大好きなバングラデシュとこれからも関わっていく道を模索する中で協力隊に参加しました。現地では、住民の方々と一緒に、彼らと同じ目線で活動することを大切に2年間を過ごしたいです。



清水 駿 さん(佐久市) 派遣国: エルサルバドル 職種: 体育

首都近辺にある特別支援学校での体育授業、障がい者スポーツの指導に携わります。日本とは違った文化や教育の中で、どうしたら体を動かすことの楽しさを知ってもらえるのか試行錯誤しながら活動したいと思います。



白上 裕樹 さん(駒ヶ根市) 派遣国: ネパール 職種: 土木

首都カトマンズ郊外にある都市の市役所で、震災復興のための住宅再建補助業務、地質調査に取り組み、災害に強い街づくりを目指します。日本とは違った文化を楽しみながら、ネパールの方々の役に立てるよう、頑張ります!



渡辺 充 さん(松本市) 派遣国: ブータン 職種: 環境教育

今思えば、幼い頃に冬の安曇野で白鳥を見たのが全ての始まりだったと思います。幸せの国ブータンで、ミツルはツルの保護活動や人との共生のために全力で取り組んで参ります。新たな経験や人との出会いが楽しみです!

シニア海外ボランティア

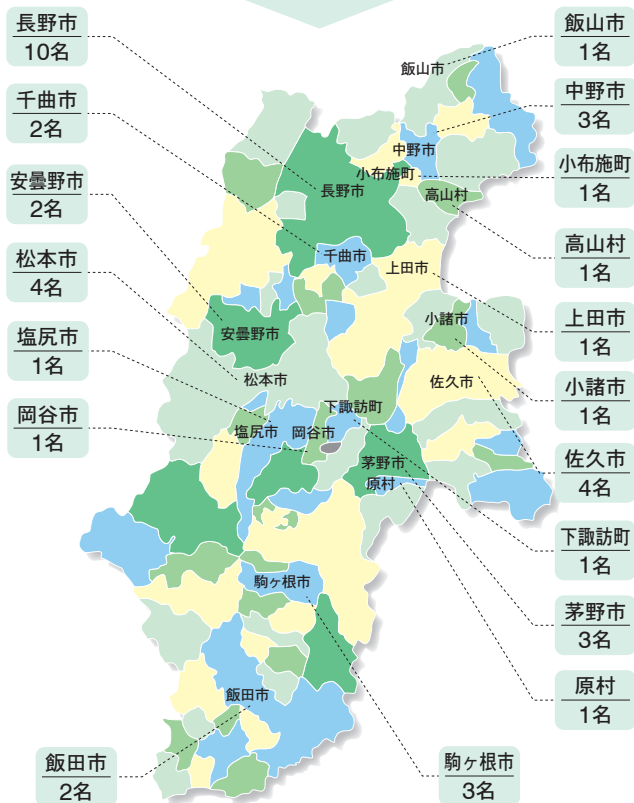


太田 和利 さん(安曇野市) 派遣国: フィジー 職種: 数学教育

私の任務は、フィジー国立大学の学生および学校教員の数学力の向上に寄与することです。フィジー社会に貢献することはもとより、帰国後は貴重な体験を生かした地域づくりなどを通して社会還元したいと思っています。

派遣中JICAボランティア (平成30年12月末現在)

*各地方自治体へ表敬訪問をした人数=JICA ボランティアの数としています。



長野県関係者 JICAボランティア派遣実績

平成30年11月30日現在

①青年海外協力隊員	派遣中 40名 累計 1023名	③日系社会青年ボランティア	派遣中 1名 累計 27名
②シニア海外ボランティア	派遣中 2名 累計 81名	④日系社会シニアボランティア	派遣中 0名 累計 5名

青年海外協力隊

発行 独立行政法人 国際協力機構 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook
https://www.facebook.com/jicakomagane

JICA駒ヶ根 メールマガジン メールでご連絡ください!

配信希望の方は jicakjv-kouhou@jica.go.jp まで

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりの情報をリアルタイムでお届けします。